

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【浦和中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	<p>全国学力・学習状況調査結果や市学習状況調査結果において、とても高い水準を維持することができた。本校は、自らの課題を考え、粘り強く学習に取り組むことができる生徒が多い。授業中や終了後には、担当教員に質問したり、友だちと相互に教え合い、理解を深めようとするなどよい環境の中で学習している。また、市学習状況調査では、「学びに向かう力等」の「国語/数学/社会/理科の勉強は好きですか」という質問項目で、全学年の肯定的な回答平均が87%だった。また「学習状況」の「国語/数学/社会/理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問項目で全学年の肯定的な回答平均が95%だった。自ら学ぶべき姿勢や授業に対する取り組みが高い水準の結果につながったと考える。</p> <p>来年度に向けて、生徒の知識欲をかき立てるような授業や発問を研究し、生徒が授業の内容をた理解するのではなく、その内容から視野を広げて自らの興味や疑問を導いて探究する姿勢を養いたい。</p>
思考・判断・表現	<p>全国学力・学習状況調査結果や市学習状況調査結果において、とても高い水準を維持することができた。市学習状況調査では、「主体的対話的で深い学び」の「学級の友達とのかで話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問項目で、全学年の肯定的な回答平均が昨年度を上回る99%だった。</p> <p>本校は協働学習や自己表現活動を普段の授業から積極的に取り入れている。また、今年度より総合的な学習の時間の一環として「探究的な学習の時間」を実施している。生徒が授業や普段の生活の中で感じた疑問や問題点などにその理由や解決策の仮説を立て、自分なりの視点で探究しその結果を発表している。今後は探究学習で得られた経験をもとに自ら疑問や問題点を見つめ探究し解決していくような将来に渡る学びの連続性をもった生徒を育成していきたい。</p>

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 与えられた課題に対して積極的に取り組むことができる一方で、自ら課題を考え、学びに向かう意欲の向上が求められる。</p> <p><指導上の課題> ただ教え込むのではなく、生徒の興味・関心を引くような発問を投げかけ、学びに向かう姿勢を養う。</p>	<p>・夏期講習や放課後学習時間での学習支援やSummer English Seminar等学びに向かう姿勢を向上させられるような取り組みを積極的に実施する。【長期休業中や定期テスト毎に実施】</p> <p>・学習形態(協働学習、反転学習、少人数指導等)を授業の特性に応じて工夫し、生徒自ら学ぶ機会を多く設定する【授業の特性に応じて実施】</p> <p>・歌舞伎鑑賞教室や和楽器体験、大学授業体験等を通して普段の授業とのつながりを意識し、積極的に学びを得ようとする姿勢を養う。【各行事ごとに実施】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 教科等横断的思考力をもとに、課題に対して自分の考えをまとめる、新たな価値を創造することが求められる。</p> <p><指導上の課題> 担当教科の側面のみ教えるのではなく、各教科相互のつながりを意識し、見方・考え方を活かしながら指導に当たる。</p>	<p>・総合的な学習の時間内で「探究的な学習の時間」を実施する。生徒が普段の生活の中で感じた疑問や課題に対して自分なりの価値を見出し、発信していく。【年間12回実施】</p> <p>・教科会や全体研修会を実施し、互いの授業での学習内容を確認したり、情報共有したりしながら、各自が授業で活かせるような事項を検討する【年間を通して必要に応じて実施】。</p>

<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<p>夏期講習では各教科担当が工夫を凝らした授業を実施した。また特別授業として埼玉大学の先生によるSTEM授業や埼玉そな銀行様をお招きした金融教育を実施した。夏休みの終わりには、さいたま市内のALTと英語で1日活動する「Summer English Seminar」を実施し、英語を用いてゲームや自己表現をしたり、ALTと会話をしたりしながら、普段の「グローバル・スタディ」で学んだ成果を活かして意欲的に活動していた。授業では少人数指導やディベート、ディスカッション活動を通して、習得した知識・技能の定着と活用を図った。</p> <p>市学習状況調査では、「学びに向かう力等」の各教科の「勉強は好きですか」という質問項目で、全学年の肯定的な回答平均が86%だった。今後も自ら進んで学習に取り組む生徒の育成に努めていきたい。</p>
思考・判断・表現	A	<p>今年度より実施した「探究的な学習の時間」では、教員やチームメンバーのサポートを得ながら生徒自身が疑問に思うことを探究し、自らの答えを導き出し研究発表することができた。当日は多くの保護者にも参加いただき、生徒たちは生き生きとした表情でこれまでの探究の成果を発表していた。生徒たちの中には新たな疑問を抱いた生徒もあり、来年度の活動に期待したい。一方で単なる調べ学習になってしまっていた生徒もいた。インターネットや本からの情報のみをピックアップしそのまま発表していたので、今後は様々な情報から取捨選択を経て、自らの答えを持つようになり、改訂、指導していきたい。この活動が中学卒業後の高校生活、その後の大学、社会人でも活かせるように、将来に渡る学びの連続性を意識させながら取り組んでいきたい。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語と数学、理科において、全国平均正答率を大きく上回っており、これまでの学習の積み重ねがよい結果につながったと考える。特に国語では「事象や行為を表す言葉について理解しているかどうか」、数学では「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうか」、理科では「抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する」問題の正答率が高かった。一方で全国平均より大きく上回っているもの、数学において「素数の意味を理解しているかどうか」、理科では「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうか」をみる問題で課題が見られた。もう一度基礎・基本を徹底し、発展的な指導へつなげていきたい。</p>
思考・判断・表現	<p>国語と数学、理科において、全国平均正答率を大きく上回っており、これまでの学習の積み重ねがよい結果につながったと考える。特に国語では「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」、数学では「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうか」、理科では「科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうか」をみる問題の正答率が高かった。今後も教科等横断的な視点を持ち、幅広い視野で物事を判断できるように指導していきたい。</p>

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(教科会・実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>本校と市の平均を比較したところ、どの教科も市平均を大きく上回っていた。特に1年社会「世界と日本の地球構成」について日本と世界各地との時差を調べることができるかどうか、1年理科「エネルギー」を柱とする領域について乾電池のつなぎ方と電流の大きさについて理解しているかどうかにおいて深い理解が見られた。一方で1年理科「粒子」を柱とする領域について、物質が液体から固体に変化するときに、体積が減少することを理解しているかどうか、2年理科「エネルギー」を柱とする領域において、スクリーンに映った像の名称を理解しているかどうかにおいて課題が見られた。</p> <p>全体を通して高い水準の結果になったが、個別の設問に目を向けるとまだ理解が不十分な分野が見られた。今回の結果を学校全体で共有し、今後の指導に活かしていきたい。</p>
思考・判断・表現	<p>本校と市の平均を比較したところ、どの教科も市平均を大きく上回っていた。特に1年数学「数と式」について基準の得点との差を正負の数で表した表と平均点から得点を求めることができるかどうか、2年理科「エネルギー」を柱とする領域について実験結果をもとに、正しいグラフをすべて選ぶことができるかどうかにおいて深い理解が見られた。一方で1年理科「粒子」と柱とする領域について、加熱時間と温度の関係を表したグラフを見て、混合物の沸騰が始まる時間を見付けられることができるかどうか、中2社会「近世までの日本とアジア」について図表資料を活用して、中世と近世の社会の変化の様子を考察することができるかどうかにおいて、課題が見られた。</p> <p>全体を通して高い水準の結果になった。知識・技能ばかりを教え込むのではなく、それらを用いて深く思考し、新たな視点をもたせられるような指導を学校全体で取り組んでいきたい。</p>

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	<p>・夏期講習では、埼玉そな銀行による金融教育や埼玉大学の先生によるSTEM授業など外部講師を招き特別授業を実施した。また、各テスト前の放課後学習における学習支援やSummer English Seminarでの働きかけなど生徒の自発的な活動を支援することができた。</p> <p>・歌舞伎鑑賞教室や大学授業体験を実施することができた。生徒は幅広い教養を身に付け、普段の授業に生かそうとしていた。</p>	変更なし
思考・判断・表現	A	<p>・今年度より総合的な学習の時間の中で「探究的な学習の時間」を開始した。生徒自らが普段の生活の中で疑問に思うことや不思議に思っていることを探究している。グループの中で話し合い活動を積極的に取り入れ、お互いにアドバイスや質問を投げかけることで深い思考力を育てることができると考えている。</p> <p>・年度はじめの教科会や年2回の授業公開週間を通して、お互いの授業を参考に、自己の授業の研鑽に励んでいる。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一步)